

# 除染をしてもカリ施肥管理は重要

東京電力福島第一原子力発電所の事故により放射性セシウムが降下した地域においては、農産物の放射性セシウム濃度を低減することが重要な課題となっています。事故の影響を受けた地域の復興を目的とした農林水産省の委託プロジェクト「農地等の放射性物質の除去・低減技術の開発」で、除染した水田において玄米の放射性セシウム濃度低減の実証研究を行いました。

## 《水田の除染》

農地の除染方法として、①表土除去（写真1）と②水による土壌攪拌・除去方式（写真2）が開発されています。②は放射性セシウムの降下後に耕起作業を行った水田に適した除染方法です。除染により、土壌と玄米の放射性セシウム濃度は低下し、その効果は除染後も持続します（図1）が、放射性セシウムは完全には無くなりません。



写真1 / 農業機械や建設機械での表土除去による除染



写真2 / 水による土壌攪拌・除去方式の除染

## 《カリ施肥管理の重要性》

土壌から玄米への放射性セシウムの移動のしやすさを表すために、移行係数（玄米の放射性セシウム濃度を土壌の放射性セシウムで割った値）が使われています。この値が高いほど放射性セシウムが玄米に移動しやすいことを意味し、土壌中の交換性カリ含量が低いと移行係数は高くなりやすいこと

農業放射線研究センター

藤村 恵人

FUJIMURA, Shigetō

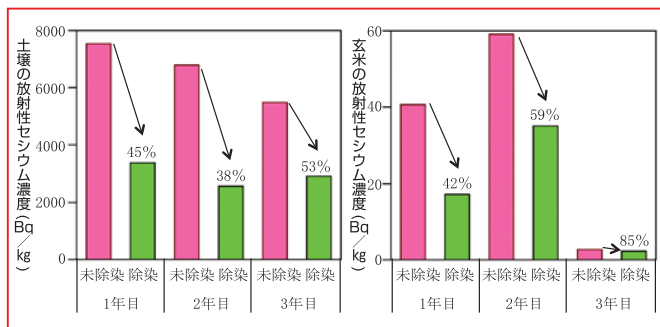


図1 / 土壌と玄米の放射性セシウム濃度

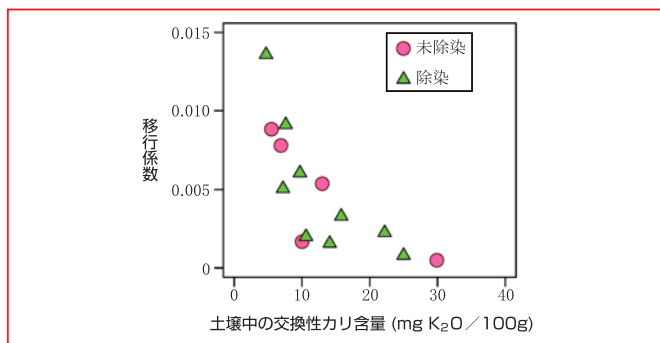


図2 / 土壌中の交換性カリ含量と移行係数の関係

が知られています。

除染した水田でも、除染をしていない水田と同じように、土壌中の交換性カリ含量が低いと、移行係数は高くなります（図2）。そのため、除染した水田でも土壌中の交換性カリ含量を減少させないようなカリ施肥管理が重要です。

## 《復興に向けて》

原子力発電所事故の影響を受けた地域では、除染を終えて営農が再開された農地もありますが、まだまだ多くの問題を抱えています。今後も福島県を中心とした行政・普及・研究機関と連携して支援を続けていきます。